

第89期 報告書

2014年4月1日 ▶ 2015年3月31日

CONTENTS

株主の皆様へ	1
業績の推移	3
事業別の概況	4
連結財務諸表	5
中期経営計画	7
TOPICS	9
会社概要	13
株主メモ	裏表紙

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り
厚く御礼申し上げます。

当社の第89期報告書（2014年4月1日～2015年3月31日）を
お届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

代表取締役社長

佐藤育男



■ 当期の業績

当期における海外経済は、アジアでは中国や他の新興国の一部で経済成長の減速傾向がみられましたが、米国では堅調な個人消費により景気が緩やかに回復、また欧州でも景気持ち直しの動きが継続するなど、総じて緩やかな景気回復が続きました。一方、わが国経済も、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減等の影響により個人消費に弱さがみられたものの、企業収益や雇用・所得環境の改善などを背景に、緩やかな回復基調で推移しました。

当社グループを取り巻く事業環境は、円安による輸出環境の改善や自動車・IT機器関連の成形機市場の拡大があったものの、新興国メーカーの台頭によるグローバル競争の激化や原子力製品市場の回復の遅れ等もあり、厳しい状況が続きました。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、「利益・効率の向上と売上規模の追求」ならびに「資産の効率化と高収益化」を目標に据え、事業活動を推進してまいりました。

当社グループにおける当期の業績につきましては、受注高は、素形材・エネルギー事業及び産業機械事業がともに増加したことにより、2,059億6百万円（前年同期比10.4%増）となりました。売上高は、産業機械事業の増加により、1,946億74百万円（前年同期比3.2%増）となりました。損益面では、営業利益は82億17百万円（前年同期比7.3%減）、経常利益は99億21百万円（前年同期比2.2%増）となりましたが、当期純損益は、風力事業損失引当金繰入額を特別損失として計上したことなどにより、37億40百万円の損失（前年同期は当期純利益55億27百万円）となりました。

■ 当期の配当

当期に風力事業損失引当金繰入額を特別損失に計上し当期純損失となったことから、株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、期末配当につきましては期初の配当予想に対し0.5円減の1株当たり2円とし、中間配当2円と合わせて、年間配当は4円とさせていただきます。

次期の配当につきましては、1株当たり中間配当2.5円、期末配当2.5円の年間配当5円を予定しております。

■ 今後の取組み

今後の経済見通しにつきましては、海外経済は米国をはじめとする先進国を中心に緩やかに回復することが見込まれ、わが国経済も緩やかな回復基調が継続すると予想されますが、中国等の新興国や欧州の景気下振れリスク、地政学的リスク、原油安の悪影響等の不安材料もあり、先行きに不透明感が残る状況となっております。

このような中、当社グループは2015年度を初年度とする3か年の中期経営計画「JGP2017」を策定し、「現有事業の収益力拡大」、「新製品・新規事業の育成・早期戦力化」、「グループ経営の強化とアライアンスの推進」を基本方針として、事業活動を推進してまいります。（中期経営計画「JGP2017」については7ページをご参照ください）

2015年度の連結業績見通しにつきましては、受注高2,100億円、売上高2,100億円、営業利益100億円、経常利益105億円、親会社株主に帰属する当期純利益67億円を予想しております。

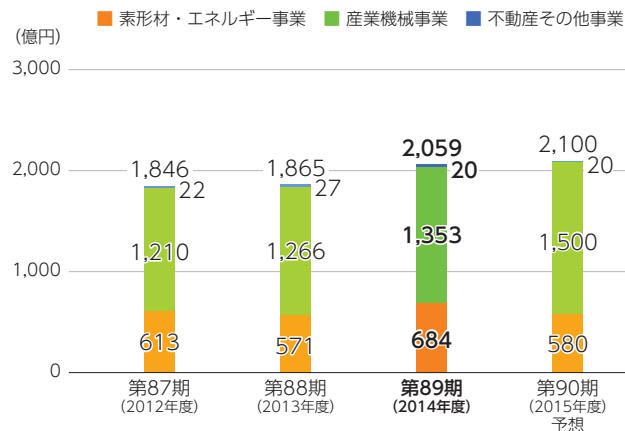
株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2015年6月

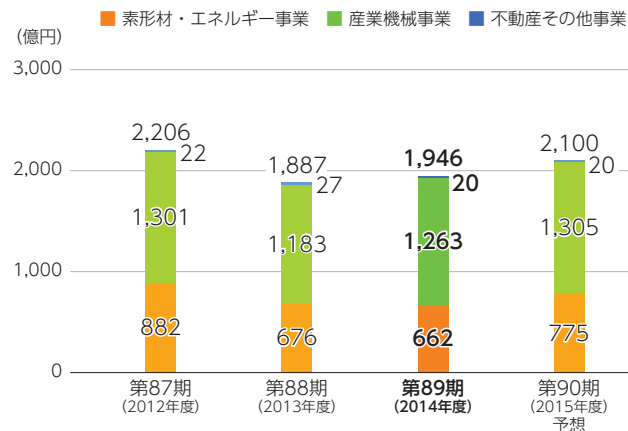
業績の推移

- **素形材・エネルギー事業**：減収・損失幅縮小、受注は大幅増。
- **産業機械事業**：増収・減益、受注は増加。

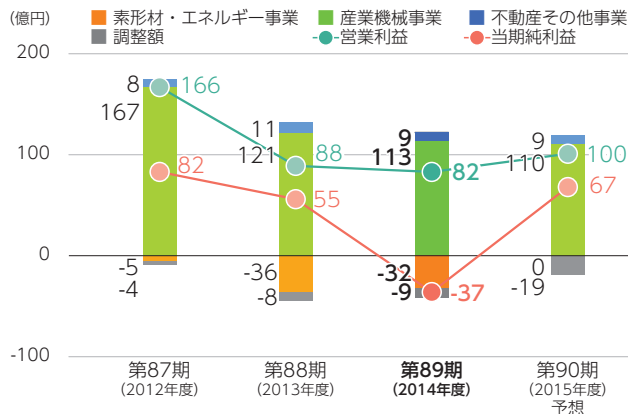
受注高の推移



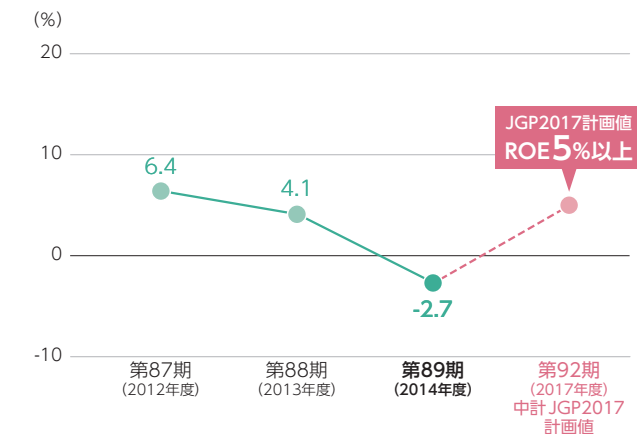
売上高の推移



営業利益・当期純利益の推移



ROEの推移



※ 第89期(2014年度)は風力事業損失引当金繰入額計上の影響により、ROEがマイナスとなっております。

事業別の概況

素形材・エネルギー事業

受注高 684億円 [前年同期比112億円増、19.8%増]
売上高 662億円 [前年同期比 13億円減、2.1%減]
営業損失 32億円 [前年同期比 4億円改善]

受注高は、クラッド鋼管の製品力が評価され大口案件を受注できたことから、684億18百万円（前年同期比19.8%増）となりました。

売上高は、電力・原子力製品やクラッド鋼板が増加したものの、クラッド鋼管が減少したことから、662億15百万円（前年同期比2.1%減）となりました。

営業損益は、原価低減活動が寄与して損失幅が縮小し、営業損失32億円（前年同期は営業損失36億6百万円）となりました。

主要な事業内容

電力・原子力製品

発電用品、原子力関連機材等の製造・販売

石油精製用圧力容器

石油精製・石油化学・一般化学用品、化学機械用品等の製造・販売

クラッド鋼板・鋼管

クラッド鋼板、クラッド鋼管、その他極厚鋼板等の製造・販売

風力発電機器

風力発電機器の製造・販売・保守

その他

鉄鋼用品、金型材等の製造・販売

●主要な工場

室蘭製作所（北海道室蘭市）

産業機械事業

受注高 1,353億円 [前年同期比 86億円増、6.9%増]
売上高 1,263億円 [前年同期比 79億円増、6.7%増]
営業利益 113億円 [前年同期比 8億円減、6.7%減]

受注高は、自動車分野を中心に成形機の受注が拡大したことや、レーザーアニール装置の受注が好調に推移したことにより、1,353億89百万円（前年同期比6.9%増）となりました。

売上高は、前年同期に大口売上があったレーザーアニール装置が減少したものの、樹脂製造・加工機械と成形機の売上が増加したことから、1,263億63百万円（前年同期比6.7%増）となりました。

営業利益は、売上製品構成の変化により、113億70百万円（前年同期比6.7%減）となりました。

主要な事業内容

樹脂製造・加工機械

樹脂製造・加工機械（造粒機、コンパウンド用押出機、フィルム・シート製造装置等）の製造・販売

成形機

プラスチック射出成形機、中空成形機の製造・販売

その他

圧縮機、油圧機器、電子部品・ディスプレイ製造関連機器（レーザーアニール装置・薄膜成膜装置等）、マグネシウム合金射出成形機、各種連結器・緩衝器、防衛関連機器等の製造・販売・修理

●主要な工場

広島製作所（広島県広島市安芸区）

横浜製作所（神奈川県横浜市金沢区）

不動産その他事業

受注高 20億円 売上高 20億円 営業利益 9億円

受注高は20億99百万円、売上高は20億95百万円、営業利益は9億62百万円となりました。

主要な事業内容

不動産賃貸等

不動産賃貸事業、業務支援・管理サービス事業等

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前期 2014年3月31日現在	当期 2015年3月31日現在
POINT ① 資産の部		
流動資産	167,476	191,523
固定資産	125,662	129,560
有形固定資産	85,672	82,775
無形固定資産	855	718
投資その他の資産	39,134	46,065
資産合計	293,139	321,083
POINT ② 負債の部		
流動負債	98,848	145,349
固定負債	55,021	35,912
負債合計	153,870	181,261
POINT ③ 純資産の部		
株主資本	135,026	129,305
資本金	19,694	19,694
資本剰余金	5,425	5,425
利益剰余金	110,635	104,916
自己株式	△730	△731
その他の包括利益累計額	3,024	8,839
その他有価証券評価差額金	4,293	9,195
繰延ヘッジ損益	△130	△194
為替換算調整勘定	△96	239
退職給付に係る調整累計額	△1,042	△399
少数株主持分	1,218	1,676
純資産合計	139,268	139,821
負債純資産合計	293,139	321,083

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前期 2013年4月 1日から 2014年3月31日まで	当期 2014年4月 1日から 2015年3月31日まで
売上高	188,719	194,674
売上原価	153,137	158,488
売上総利益	35,581	36,186
販売費及び一般管理費	26,717	27,969
POINT ④ 営業利益	8,864	8,217
営業外収益	2,480	2,848
営業外費用	1,640	1,144
経常利益	9,704	9,921
特別利益	154	2,439
特別損失	354	16,378
税金等調整前当期純利益 (△は損失)	9,504	△4,017
法人税、住民税及び事業税	3,530	3,534
法人税等調整額	344	△4,026
少数株主損益調整前当期純利益 (△は損失)	5,629	△3,525
少数株主利益	102	215
POINT ⑤ 当期純利益 (△は損失)	5,527	△3,740

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前期 2013年4月 1日から 2014年3月31日まで	当期 2014年4月 1日から 2015年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,549	11,580
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,719	△2,675
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,007	△2,964
現金及び現金同等物に係る換算差額	432	415
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△8,744	6,356
現金及び現金同等物の期首残高	50,972	42,297
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	69	498
現金及び現金同等物の期末残高	42,297	49,152

POINT!

ポイント解説

POINT① 資産の部

総資産は、前期末比279億44百万円増加し、3,210億83百万円となりました。これは主に、現金及び預金、受取手形及び売掛金、繰延税金資産の増加などにより流動資産が増加したためであります。

POINT② 負債の部

負債は、前期末比273億91百万円増加し、1,812億61百万円となりました。これは主に、前受金の増加や風力事業損失引当金の計上などにより流動負債が増加したためであります。

POINT③ 純資産の部

純資産は、前期末比5億52百万円増加し、1,398億21百万円となりました。これは主に、当期純損失の計上により利益剰余金が減少した一方、その他有価証券評価差額金などが増加したためであります。

POINT④ 営業利益

営業利益は、素形材・エネルギー事業において改善したものの、産業機械事業における売上製品構成の変化により、前年同期比6億47百万円減少しました。

POINT⑤ 当期純利益

当期純利益は、特別損失として風力事業損失引当金繰入額159億67百万円を計上したことにより、前年同期比92億68百万円減少しました。

詳細はWEBサイトをご参照ください。

当社は、半期毎の報告書の他、IR説明会資料やアニュアルレポート等をホームページに掲載し、株主の皆様を始め投資家の皆様への情報提供に努めております。各種IRツールは、下記URL（当社ホームページ／株主・投資家情報ページ）にてご覧いただけます。

<http://www.jsw.co.jp/ir/>

日本製鋼所 IR

検索



新中期経営計画「JGP2017」について

1. 目指す企業像と数値目標

『グローバル&ニッチトップ企業グループへの飛躍』

顧客のバリューチェーンの要衝においてトップシェアを目指す

JSWグループ(連結)	2014年度(実績)	JGP2017 2017年度(計画)	2020年度(目標)
売上高	1,946億円	2,200億円以上	2,500億円以上
営業利益 (営業利益率)	82億円 (4.2%)	130億円以上 (6%)	200億円以上 (8%)
ROA	△1.2%	3%以上	4%以上
ROE	△2.7%	5%以上	8%以上*

* 収益力強化と資産効率の向上を図り、ポストJGP2017の早期にROE8%以上を目指す。

2. JGP2017の基本方針

方針1 現有事業の収益力拡大

- 製品・サービスの差別化推進
- トータルコスト競争力の強化
- サービス&ソリューション事業の開拓
- 成長市場における展開強化

方針2 新製品・新規事業の育成・早期戦力化

- 保有経営資源をコアとする事業化の推進
- 時間軸と推進体制の適正化

方針3 グループ経営の強化とアライアンスの推進

アクションプランによる経営管理の徹底 (PDCA の実行)

3. セグメント別事業戦略

素形材・エネルギー事業

「守りの経営」

による緩やかな事業伸長と
ポストJGP2017における再成長を睨んだ布石

室蘭再構築プロジェクト

- 資産効率・生産性の向上
- 製品構成の見直し・選別強化

投下資本を
圧縮

事業領域の
見直し

黒字定着

【2014年度】

売上高 662億円
営業損失 32億円

【2017年度】

売上高 660億円
営業利益 10億円

産業機械事業

「攻めの経営」

による成長機会の発掘と
事業伸長の加速

- 広島・横浜製作所の工場ラインの再配置と生産能力向上
- アライアンスの積極的な活用・推進

戦略的に
資本を投入

事業領域の
拡大

安定利益の
創出と伸長

【2014年度】

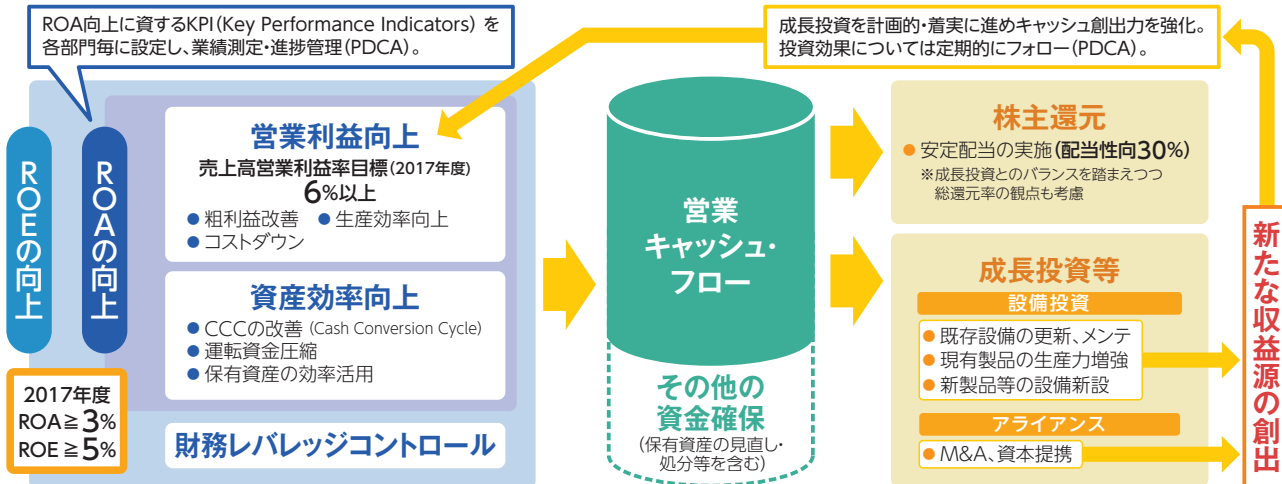
売上高 1,263億円
営業利益 113億円

【2017年度】

売上高 1,520億円
営業利益 130億円

4. 財務戦略

キャッシュ創出力の強化と有効活用により株主価値を向上



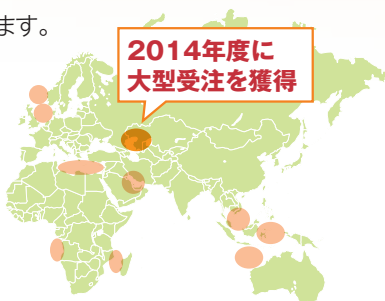
TOPICS

クラッド鋼管 大型案件を獲得し、過去最高の受注高となる

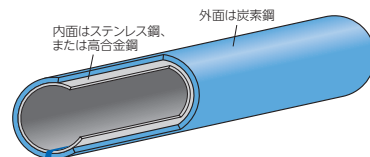
当社の主力製品であるクラッド鋼管は、耐腐食性を有する複合材料鋼管で、主に天然ガス田にて天然ガスの輸送用に使用されます。

2014年度は、中央アジアの天然ガス開発プロジェクトから約350億円を受注し、過去最高の受注高を達成しています。

同製品への需要は中長期的に堅調に推移する見込です。当社は素材から一貫製造が可能なメーカーですが、材料・溶接技術の高い知見と、世界シェア70%を誇る豊富な実績に裏打ちされた信頼性を活かし、一層の受注拡大に取り組んでまいります。



世界中で計画される天然ガス開発プロジェクト



クラッド鋼管の構造

エネルギーインフラ向け新製品

水素ステーション向け鋼製蓄圧器

福岡市による「水素リーダー都市プロジェクト」などに採用が進んでいます。

当社の高い技術力を活かした低コスト・高耐久の製品です。



水素ステーション向け鋼製蓄圧器

洋上風力発電機向けに新製品を開拓

欧州にて洋上風力発電が活発化しておりますが、洋上風力発電機を着床式で設置する際の、基礎杭を打つハンマーに当社の大型鍛鋼品が使用されています。600トンの大型鋼塊により鍛造した、世界最大の杭打ちハンマー用アンビルです。



洋上風力用杭打ちハンマー用アンビル

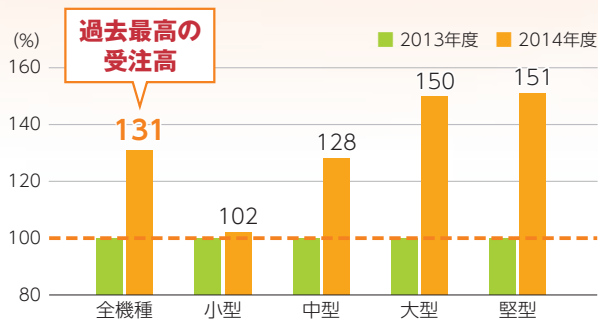
射出成形機 過去最高の受注高を達成／新型機を発売開始

2014年度は主に国内/中国/北米市場において、自動車分野向け中・大型機を中心に受注を拡大し、過去最高の受注高を達成しています。

また、3月には新たに開発した中型電動射出成形機「J-ADS」シリーズの販売を開始しております。

同シリーズでは業界初となるスマートフォン感覚で操作可能なタッチパネルを搭載するとともに省エネも図っており、「使いやすい」「ランニングコストの低減」を追求しています。自動車向けのみならず、家電・OA機器、高級雑貨分野への拡販に取り組んでいきます。

機種別受注額



新中型電動射出成形機「J-ADS」シリーズ、3月発売開始!



①新開発の高耐圧シリンダ

②省エネ (当社比10%削減)

③オプション装備の標準化

④新コントローラ SYSCOM5000i

業界初! スマホ感覚のタッチパネル



TOPICS

フィルム・シート製造装置 **ラインアップ拡充による競争力強化**

当社は各種フィルム・シート製造装置を手掛け、包装材や光学部材などの様々な用途に向けて販売する世界有数のメーカーです。

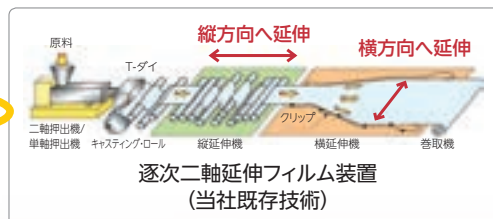
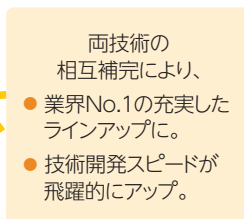
このたび、日立製作所グループより同時二軸延伸機の事業を譲り受け、対応可能な製法範囲の拡大を図りました。当社は業界No.1の充実した製品ラインアップを有することとなります。この特長を活かして、お客さまへ積極的に多彩なご提案を行い、受注拡大に努めます。

また、当社の既存技術との相互補完により、技術開発スピードをアップさせ、新たな特殊フィルム用途を開拓してまいります。



特長 生産性：◎ 特殊性質への対応：○

主な用途 リチウム電池用セパレータフィルム
(自動車・航空機)



特長 生産性：○ 特殊性質への対応：◎

主な用途 リチウム電池用セパレータフィルム
(パソコン・スマートフォン)

広島製作所 **組立工場増強に着手。更なる受注増に対応**

産業機械事業の主力生産拠点である広島製作所にて、組立ラインの大幅な配置見直しと工場の建替え・拡張工事を行います。2016年3月からの稼働予定です。この工事により、樹脂製造・加工機械は10%、成形機では30%の生産能力が向上します。両製品の受注高は堅調に推移しておりますが、今後一層の伸長が見込まれ、これへの対応を図るものです。



コンパウンド用混練押出機 M&Aにより世界シェア第2位を確保

近年、プラスチックの適用範囲は拡大を続けており、コンパウンド樹脂に対する世界的な需要は増加しております。

この度、当社は韓国トップのコンパウンド用混練押出機メーカーであるSM PLATEK社(以下SMP社)を子会社化しております。これにより、当社グループは世界シェア第2位(約20%)を占めることとなります。

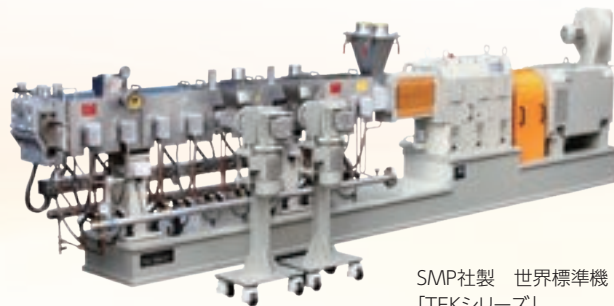
高性能樹脂コンパウンド分野などの最先端分野については、当社のTEXシリーズでの対応を強化し、ボリュームゾーンである汎用樹脂コンパウンド分野へに対しては、SMP社のTEKシリーズを当社グループのグローバルスタンダードモデルと位置付け、拡販を図ることで、世界トップシェアを目指してまいります。

コンパウンド用混練押出機とは

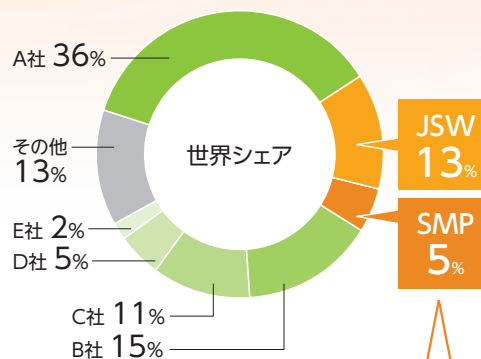
プラスチック原材料の付加価値を高めるために用いる機械。プラスチック材料へ各種添加剤の混練等を行います。



日本製鋼所製 高級仕様機
「TEXシリーズ」



SMP社製 世界標準機
「TEKシリーズ」



両社で世界シェア第2位(約20%)の地位を確固たるものとし、世界No.1を目指す。

会社概要

会社の概要 (2015年3月31日現在)

創 業 1907(明治40)年11月1日
 設 立 1950(昭和25)年12月11日
 資 本 金 196億9,423万561円
 従 業 員 数 単体:2,219名
 (就業人員数) 連結:5,225名

取締役及び監査役 (2015年6月24日現在)

代表取締役社長 佐藤 育男
 代表取締役副社長 田中 義友
 取締役専務執行役員 門田 彰
 取締役専務執行役員 清水 信明
 取締役常務執行役員 渡邊 健二
 取締役常務執行役員 東泉 豊
 取締役(社外) 佐藤 元信
 常勤監査役 岩下 壽夫
 常勤監査役 水谷 豊
 常勤監査役(社外) 河上 守
 監査役(社外) 城野 和也

執行役員(取締役兼務者を除く) (2015年6月24日現在)

専務執行役員 北村 和夫 上席執行役員 松尾 洋久
 常務執行役員 濱尾 博 上席執行役員 清水 誠
 常務執行役員 小野 信市 上席執行役員 折田 勝利
 常務執行役員 石橋 義尚 執行役員 大下 真雄
 常務執行役員 藤村 浩 執行役員 村上 博司
 常務執行役員 宮内 直孝 執行役員 香川 豊彦
 常務執行役員 柴田 尚 執行役員 出口 淳一郎

(注) 当社は、取締役 佐藤元信氏並びに監査役 河上守氏及び城野和也氏を東京証券取引所及び名古屋証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、各取引所に届け出ております。

株式の状況 (2015年3月31日現在)

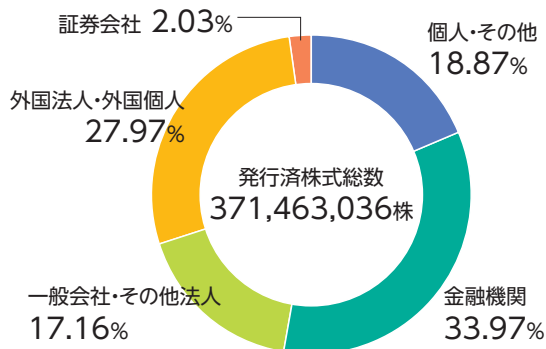
発行可能株式総数 1,000,000,000株
 発行済株式総数 371,463,036株
 株 主 数 27,184名

大株主 (2015年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	19,714	5.32
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	15,924	4.30
三井生命保険株式会社	14,138	3.82
株式会社三井住友銀行	12,550	3.39
三井住友海上火災保険株式会社	8,824	2.38
ジユニパー	8,300	2.24
三井住友信託銀行株式会社	8,152	2.20
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE-HSD00	6,981	1.89
シービーニューヨークオービスエスアイシーアーヴィー	6,736	1.82
新日鐵住金株式会社	6,530	1.76

(注) 持株比率は、発行済株式総数から自己株式(1,192,297株)を控除して計算しております。

所有者別分布状況 (2015年3月31日現在)





ネットワーク (2015年3月31日現在)

● 本社

東京都品川区大崎一丁目11番1号
TEL. (03)5745-2001 (大代表)
FAX. (03)5745-2025

● 支店・営業所

札幌支店 (札幌市中央区)
名古屋支店 (名古屋市中区)
関西支店 (大阪市西区)
中国支店 (広島市安芸区)
九州支店 (春日市)
東北営業所 (仙台市宮城野区)
関東営業所 (川口市)
関西営業所 (吹田市)
府中出張所 (府中市)
浜松出張所 (浜松市中区)

● 研究所

室蘭研究所 (室蘭市)
広島研究所 (広島市安芸区)
横浜研究所 (横浜市金沢区)

● 工場

室蘭製作所 (室蘭市)
広島製作所 (広島市安芸区)
横浜製作所 (横浜市金沢区)

● 主な国内子会社

JSW ITサービス株式会社
JSW アフティ株式会社
ファインクリスタル株式会社
株式会社タハラ
株式会社ニップラ
エムジープレジジョン株式会社
日鋼YPK商事株式会社
株式会社名機製作所
日鋼特機株式会社

● 海外拠点

アメリカ	Japan Steel Works America, Inc. JSW Plastics Machinery, Inc.
インド	JAPAN STEEL WORKS INDIA PRIVATE LIMITED
インドネシア	PT. JSW Plastics Machinery Indonesia
韓国	JSW IT KOREA CO.,LTD.
シンガポール	THE JAPAN STEEL WORKS (SINGAPORE) PTE. LTD.
タイ	The Japan Steel Works (Thailand) Co., Ltd.
台湾	JSW Plastics Machinery (TAIWAN) Corp.
中国	Fine Crystal (H.K.) Co., Ltd. Fine Crystal Precision (S.Z.) Co., Ltd. JSW Machinery Trading (Shanghai) Co., Ltd. JSW Plastics Machinery (H.K.) Co., Ltd. JSW Injection Machine Maintenance (Shenzhen) Co., Ltd. NINGBO TONGYONG PLASTIC MACHINERY MANUFACTURING CO., LTD. JSW Machinery (Ningbo) Co., Ltd. Y P K TRADING (HONG KONG) CO., Ltd. Y P K Machine Trading (Shenzhen) Co., Ltd.
ドイツ	Japan Steel Works Europe GmbH
フィリピン	JSW Plastics Machinery (Philippines) Inc.
ベトナム	JSW Plastics Machinery Vietnam Ltd.
マレーシア	JSW Plastics Machinery (M) SDN. BHD.

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
公告掲載方法	電子公告 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行なう。
単元株式数	1,000株
上場証券取引所	東京(1部)、名古屋(1部)

株主様のご住所・お名前に使用する文字に関してのご案内

株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前の文字に、株式会社証券保管振替機構（ほふり）が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿にご登録いたしております。このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前として登録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

配当金のお受取り方法について

配当金を配当金領収証でお受取りの株主様には、確実に配当金をお受取りいただける口座振込のご利用をおすすめいたします。ご希望の株主様は、お取引の証券会社（特別口座に記録されている株主様は特別口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社）へ所定の用紙をご請求の上、お申込みください。

ホームページのご案内

当社の企業活動、製品などに関する詳しい情報につきましては、「株式会社日本製鋼所ホームページ」でご覧いただけます。こちらもどうぞご利用ください。

<http://www.jsw.co.jp/>



日本製鋼所

検索

2015年IRスケジュール

- 8月上旬 ● 第1四半期決算発表
- 11月上旬 ● 第2四半期決算発表
- 12月上旬 ● 中間配当金お支払い
● 第90期中間報告書発行



この報告書は、環境に配慮した「植物油インク」を使用しています。